

2018年3月期 第4四半期 決算説明会資料

2018年5月10日@ベルサール八重洲
7741.T [ADR: HOCPY US] HOYA株式会社

[メモ付ver.]

説明会におけるコメントや質疑応答を参考情報として記載しております。説明内容をすべて書き起こしたものではありませんのでご了承ください。

1. 決算概要 [代表執行役CFO 廣岡 亮]

2. 情報・通信事業概況

3. ライフケア事業概況

4. 総括

5. 質疑応答

業績概況

(億円)	Q4 FY16	Q4 FY17	YoY	YoY(%)
売上収益	1,263	1,359	+96	+8%
税引前四半期利益	244	262	+17	+7%
四半期利益	190	195	+6	+3%
cf. 通常の営業活動 からの利益	269	330	+61	+23%

海外法人において減損処理を行ったものの増益を達成。
ライフケア事業の利益率改善により、大幅営業増益

為替換算の影響

(億円)	前期レート 換算(A)	当期レート 換算(B)	為替換算 影響額	実質YoY	実質 YoY(%)
売上収益	1,354	1,359	+6	+91	+7%
税引前四半期利益	261	262	+1	+17	+7%
四半期利益	194	195	+1	+5	+2%

主要通貨	(A)Q4 FY16 レート	(B)Q4 FY17 レート	変動率
US\$	112.85円	107.47円	+4.8%(円高)
EURO	120.17円	132.29円	-10.1%(円安)
BAHT	3.24円	3.43円	-5.9%(円安)

特殊要因について

包括利益計算書

(億円)	Q4 FY16	Q4 FY17	YoY
収益合計	1,275	1,371	+95
費用合計	1,031	1,109	+78
減損損失	2	56	+54
税引前四半期利益	244	262	+17

- 1 主にブラジルの子会社（メガネレンズ事業）ののれん減損による。ブラジルレアルの下落による仕入れコスト増大等により、買収時と比べ収益力が低下したため。
なお、市場シェアは計画どおり順調に拡大しており、今後も南米の重要な拠点としてプレゼンスを上げていく。

© 2018 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

5

ブラジルレアルの下落により、グループ会社からの仕入れ費用が倍増。
ブラジル国内の成長率についても、一時よりは持ち直したものの、将来について楽観視できないため、減損を実施。
なお、ブラジルの子会社は、実質的には順調であり、競争を大きくオーバーパフォームしている。

ライフケア事業 業績概況

(億円)	Q4 FY16	Q4 FY17	YoY	YoY(%)
売上収益*	838	919	+81	+10%
税引前四半期利益	123	109	-14	-12%
cf.通常の営業活動 からの利益	132	181	+49	+37%
cf.通常の営業活動 からの利益率	15.7%	19.7%	+4pt	

*外部売上の数値

© 2018 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

6

ライフケア事業 業績概況(為替影響除き)

Q4 FY17業績の前期レート換算との比較

(億円)	前期レート 換算	当期レート 換算	為替換算 影響額	実質 YoY	実質 YoY(%)
売上収益*	903	919	+16	+65	+8%
税引前四半期利益	105	109	+4	-19	-15%
cf.通常の営業活動 からの利益	178	181	+3	+46	+35%

*外部売上の数値

情報・通信事業 業績概況

(億円)	Q4 FY16	Q4 FY17	YoY	YoY(%)
売上収益*	416	426	+11	+3%
税引前四半期利益	136	157	+21	+16%
cf.通常の営業活動 からの利益	149	161	+12	+8%
cf.通常の営業活動 からの利益率	35.9%	37.7%	+1.8pt	

*外部売上の数値

© 2018 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

8

通常の営業活動からの利益と比較して、税引前四半期利益の増益率が高いのは、FY16に熊本地震に係る災害損失があったため。

情報・通信事業 業績概況(為替影響除き)

Q4 FY17業績の前期レート換算との比較

(億円)	前期レート 換算	当期レート 換算	為替換算 影響	実質 YoY	実質 YoY(%)
売上収益*	437	426	-11	+21	+5%
税引前四半期利益	160	157	-3	+24	+18%
cf.通常の営業活動 からの利益	164	161	-3	+15	+10%

*外部売上の数値

貸借対照表

(億円)	Q3 FY17	Q4 FY17	QoQ
非流動資産	2,195	2,045	-151
流動資産	4,365	4,462	+97
資本	5,400	5,307	-93
非流動負債	166	157	-9
流動負債	993	1,043	+49
合計	6,560	6,506	-53

1 のれんの減損処理、無形資産の償却、外貨建て資産の為替変動による減少等により151億円の減少となった。

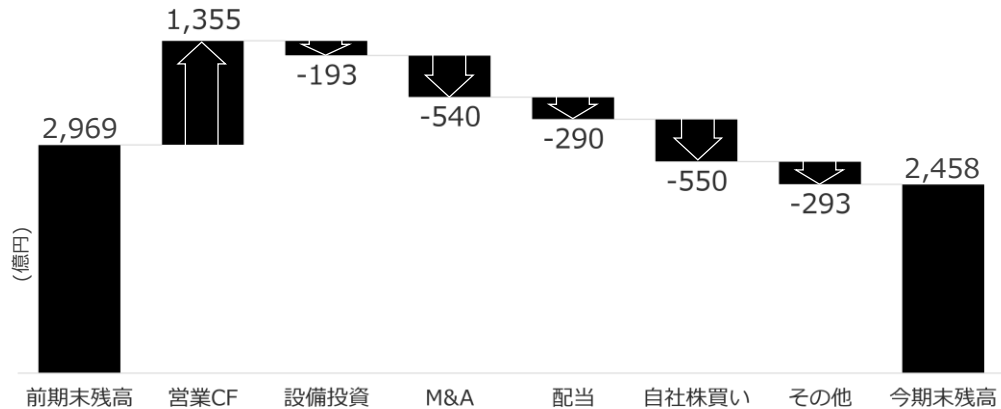
キャッシュフロー計算書

(億円)	Q4 FY16	Q4 FY17	YoY
営業活動によるCF	369	395	+26
投資活動によるCF	-63	-34	+29
財務活動によるCF	3	-97	-100
現金及び現金同等物 期末残高	2,969	2,458	-510

1 2017年12月に総額300億円の自社株買いを決議。
12月に203億円分取得、Q4は1月に97億円分取得、前年同期
は自社株買いがなかったため100億円の差額となった。

キャッシュ・アロケーション

FY17はFCFを全て株主に還元。
FY18以降も同等以上のFCF創出を目指していく。



*なお、FY17期末配当は45円を予定。

© 2018 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

12

手元資金については、現状の水準（2,458億円）もやや大きいと考えている。

今後も、フリーキャッシュフローを株主に還元していく方針であり、タイミングを見ながら機動的に還元していく。

[その他の事項]

株主総会決議になるが、社外取締役を1名増員予定。

（国際的な会計事務所においてグローバルマネージングパートナーとしての経験を持つ吉原寛章氏）

1. 決算概要

2. 情報・通信事業概況 [執行役COO/CTO 池田 英一郎]

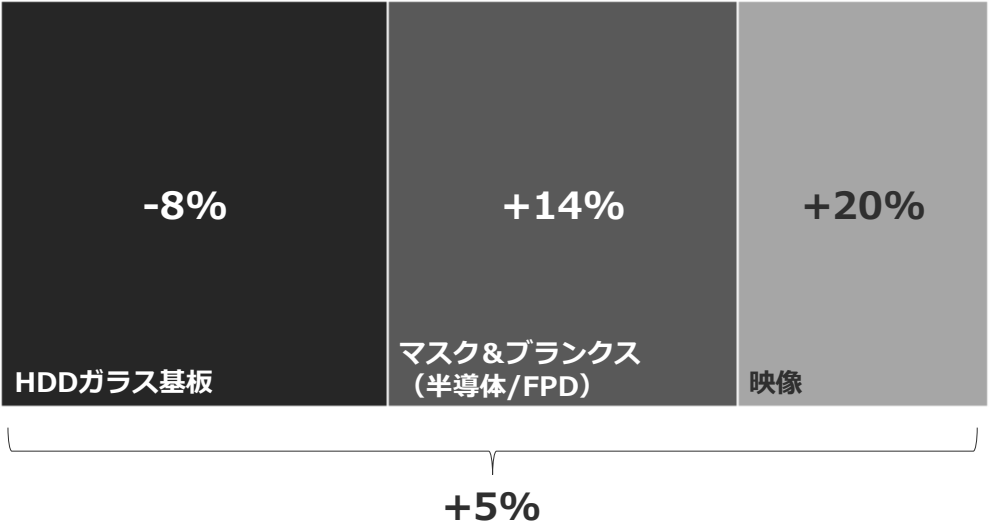
3. ライフケア事業概況

4. 総括

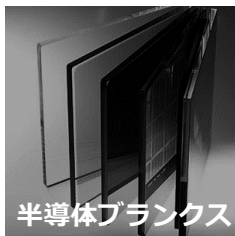
5. 質疑応答

情報・通信事業概況

売上増減率（為替影響除き）



製品別概況

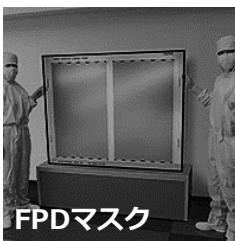


足元

全製品クラスの売上が拡大、中でもEUV製品が大幅に伸張、ブランクス売上の18%に

今後

半導体メーカーの設備投資増加などにけん引され、EUV製品の継続的拡大を見込む



足元

韓国で売上回復、中国での売上が順調に拡大
主にスマホLCD/OLED向けマスクがけん引

今後

HOYAが生産可能なG8.5以下の市場成長も予想しており、中でも高精細品に注力

© 2018 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

15

[半導体ブランク]

EUVは前期比+60%以上と大幅成長。

EUV露光機メーカーの公表情報によると、1月～3月においても9台受注している状況であり、順調に露光機台数が増えている。

さらに、High NAのような新しい軸の技術が出てきており、開発需要を喚起する可能性が高い。

[FPDマスク]

二桁の増加率となった。

中でも中国での売上が伸びており、FPDマスク売上全体の3割にまで拡大している。

製品別概況

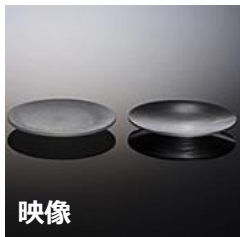


足元

2.5inch：特殊な前期と異なり、季節要因が影響
3.5inch：売上の13%に成長（Q3は7%）

今後

秋以降、3.5inchが2.5inchの縮小をカバーする規模まで成長



足元

高級コンデジやミラーレス用交換レンズが堅調
監視カメラ向けレンズが継続して成長

今後

デジカメは震災からの反動が一巡、これら以外の用途を引き続き拡大

© 2018 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

16

[HDDガラス基板]

売上-8%は想定線内。

もともとQ4は外部要因的に需要が落ちる時期であり、内部要因的には工場のあるベトナムでテト（旧正月）があり、生産数が減少する傾向。

前年同期はNAND不足特需などにより、Q3からQ4にかけて売上が落ちない特殊な年度であった。

前回決算発表時（Q3 FY17）はニアラインサーバーによる認定が1社だったが、現在では5社まで拡大しており順調に進捗している。

本年度後半は、主力のHDDが10TB機から、HOYAのガラス基板搭載のものを含む12TB機に切り替わっていくタイミングと見ている。

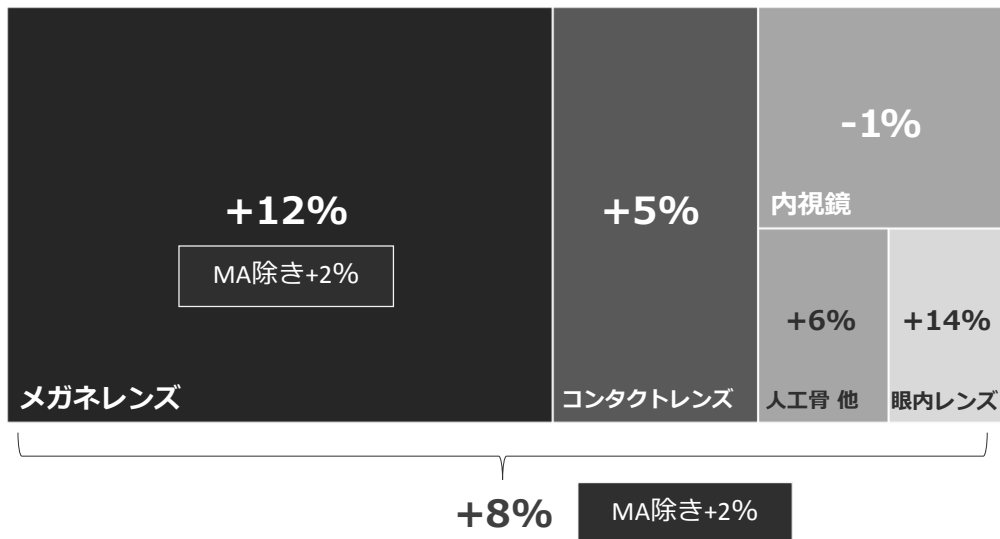
[映像]

高級コンデジや交換レンズにおけるHOYAのガラス非球面レンズ（GMO）採用率が伸びている。

1. 決算概要
2. 情報・通信事業概況
- 3. ライフケア事業概況 [代表執行役CEO 鈴木 洋]**
4. 総括
5. 質疑応答

ライフケア事業概況

売上増減率（為替影響除き）



製品別概況



足元

日欧が減収のものの、堅調なAPACと米州により増収。収益性も大幅に改善

今後

APAC/米州市場に焦点、買収先とのシナジー発揮



足元

堅調に推移。採算性向上のため、期末に店舗を整理。期末店舗数 276店（新規3/閉店8）

今後

新規出店継続、付加価値製品によるARPU向上

製品別概況



眼内レンズ

足元

APACや欧州での販売数が大幅に増加、四半期最高売上を更新

今後

新工場を軸に増産、販売地域拡大などにより、引き続き二桁成長を目指す



内視鏡

足元

大型案件獲得の前年同期から米州は反動減、好調なAPACでこれをカバーし、全体では横ばい

今後

ハイエンドから新興市場向けの低価格帯製品まで、新製品を順次発売し売上拡大を図る

© 2018 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

20

[眼内レンズ]

FY16は製品の供給不足に陥り、成長にキャップがかかっている状態であったが、新工場が稼働しはじめ、その制限もなくなった。

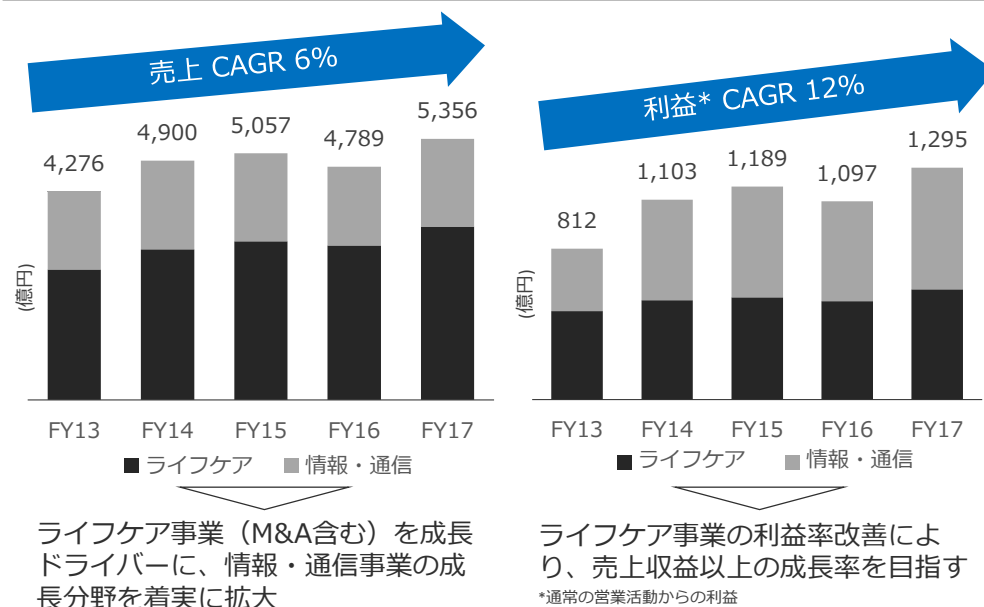
日本では既に市場シェアが30%程度と高く成長が鈍化しているので、今後APACや欧州を中心に二桁成長を目指していく。

[内視鏡]

しばらく開発が滞っていたが、少しずつ開発を再開している。下期以降、新製品を順次発売するなど明るい方向に進んでいる。

1. 決算概要
2. 情報通信事業概況
3. ライフケア事業概況
- 4. 総括 [代表執行役CEO 鈴木 洋]**
5. 質疑応答

総括と今後の見通し



© 2018 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

22

FY17は、ライフケア事業が伸び悩み、結果的に好調な情報・通信事業に助けられた1年であった。

FY18は、情報・通信事業におけるマイナス要素が薄れてきており、ライフケア事業についても眼内レンズや内視鏡にアップサイドが見えており、FY17と比べ不安要素が少ない。

1. 決算概要
2. ライフケア事業概況
3. 情報・通信事業概況
4. 総括
- 5. 質疑応答**

質疑応答内容-1

Q

[HDDガラス基板]
足元のNAND需給状況はどうか。

A

足元では供給余剰とはなっていない認識。NANDはスマホに優先的に使われ、かなり余剰にならないとPCストレージには使われないだろう。記録容量の大きいスマホが増えているので、NAND需給状況はややタイト感さえある。

今後の需給バランスはスマホにどの程度NANDが使われるかによるが、当社としては需給バランスが緩むことでNANDの価格が低下し、HDD及び当社2.5インチ基板の需要が減少すると保守的に見ている。これを3.5インチ基板の売上増で相殺し、事業全体としては横ばいを見込んでいる。

Q

[ブランクス]
今後のEUV向けブランクス市場規模、EUV量産適用時期について

A

市場に出ているEUV露光機数の増加はブランクス市場にとってポジティブ。現状は研究開発用途の需要だが、EUV量産適用後のブランクス需要については予測が困難。

EUV量産適用時期は予測が難しいが、前倒しにはならないだろう。

質疑応答内容-2

Q

[ライフケア事業]
今後の利益率目標について

A

Q4の利益率（通常の営業活動からの利益）は実力ベースでは18%強と推定。
FY18は年間を通して平均的に20%を達成することを目標としている。

ライフケアの主力事業であるメガネレンズの売上高拡大が鍵であり、営業活動効率を高めていくこと等により達成を目指す。

Q

[手元資金]
以前は手元資金の上限を3,000億円としていたと思うが、今回は現状の2,400億円規模でも多いとのコメントをされていた。方針が変わったのか？

A

M&Aをアグレッシブに行うことを前提に3,000億円を手元資金の上限値としていたが、買収対象となる企業のバリュエーションの高さから、当初想定していたほど買収はできていない(※)。以上から、必要とする手元資金の水準が以前より下がっている。

※既存事業とのシナジーがあり、アップサイドが見込めるものは理論上のバリュエーションが下がると考えており、買収対象となろう。

質疑応答内容-3

Q

[グループ経営]

現在のHOYAはSBU（戦略事業単位）で、それぞれが独立して事業活動を行っている認識だが、今後SBUを横断的に串刺しする経営手法はとらないのか？

A

これまでは、事業の性質が異なることや、SBUそれぞれの責任範囲を明確にする縦割り型のメリットが大きかった。一方で、SBU間での共通項もあり、今後は会社としてさらに成長していくために縦と横を組み合わせたマトリックス型の組織体制を作っていきたい。

Q

[設備投資]

FY18の設備投資の考え方は？

また、ライフケア事業と、情報・通信事業の利益額は今後逆転していくのか？

A

近年において、情報・通信事業は安定事業という位置付けで、投資を積極的に行ってこなかった。しかしながら、生産設備のアップデートが必要に迫られていることに加え、（EUV blanksや3.5inch基板など）成長分野の売上を伸ばすために投資する再開する方針。両事業の利益額の逆転はすぐにはないであろう。

Appendix

連結業績（年間累計）

(億円)	FY16	FY17	YoY	YoY(%)
売上収益	4,789	5,356	+567	+12%
税引前当期利益	1,108	1,242	+135	+12%
当期利益	869	992	+124	+14%
cf. 通常の営業活動からの利益	1,097	1,295	+197	+18%

ライフケア事業 業績（年間累計）

(億円)	FY16	FY17	YoY	YoY(%)
売上収益*	3,144	3,529	+384	+12%
税引前当期利益	547	564	+17	+3%
cf.通常の営業活動からの利益	568	636	+69	+12%
cf.通常の営業活動からの利益率	18.0%	18.0%	+0pt	

*外部売上の数値

© 2018 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

29

情報・通信事業 業績（年間累計）

(億円)	FY16	FY17	YoY	YoY(%)
売上収益*	1,606	1,785	+179	+11%
税引前当期利益	545	700	+155	+28%
cf.通常の営業活動 からの利益	575	701	+126	+22%
cf.通常の営業活動 からの利益率	35.6%	39.2%	+3.6pt	

*外部売上の数値

© 2018 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

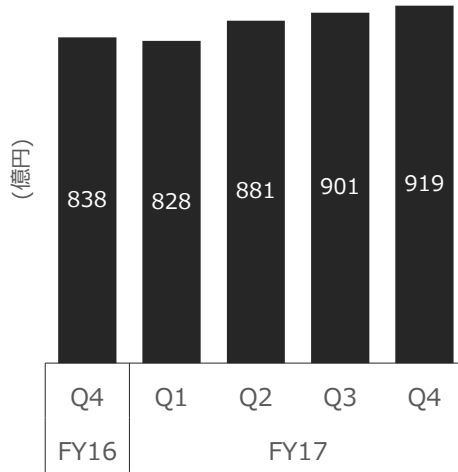
30

キャッシュフロー計算書（年間累計）

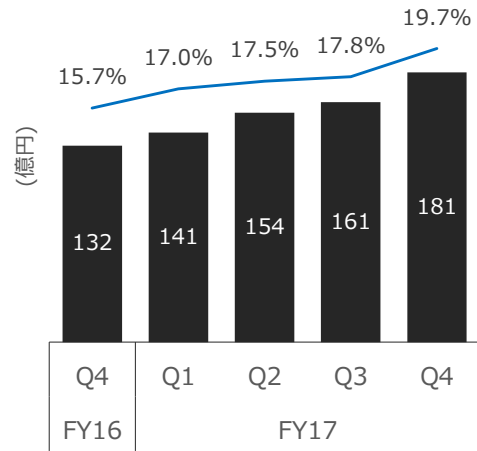
(億円)	FY16	FY17	YoY
営業活動によるCF	1,077	1,355	+278
投資活動によるCF	-275	-685	-410
財務活動によるCF	-643	-1,173	-530
現金及び現金同等物 期末残高	2,969	2,458	-510

ライフケア事業 QoQ推移

売上収益*



cf. 通常の営業活動からの利益 / 率

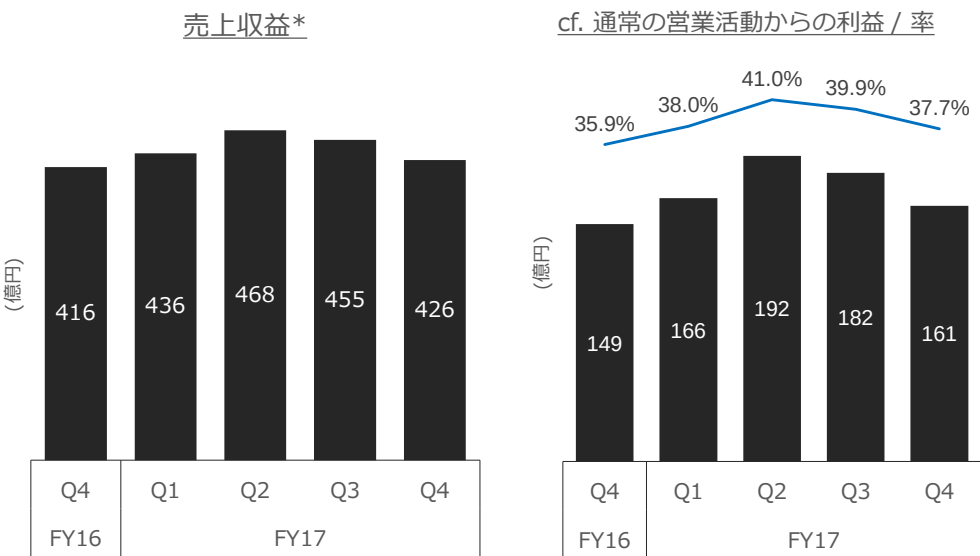


*外部売上の数値

© 2018 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

32

情報・通信事業 QoQ推移



*外部売上の数値

本資料の表記について

- ✓ 当社は国際会計基準（IFRS）を適用しています。
- ✓ 2017年4月～2018年3月の会計期間を2018年3月期もしくはFY17と表記しています。
- ✓ 第1四半期、第2四半期、第3四半期、第4四半期をそれぞれQ1, Q2, Q3, Q4と表記しています。
- ✓ 億円未満の金額は四捨五入しており、そのため合計値が合わない場合があります。
％は実際の金額を基に算出しています。
- ✓ 通常の営業活動からの利益は、税引前利益から金融収益・費用、持分法投資損益、為替差損益及び非経常的に発生する損益等を除いて算出している参考値です。
- ✓ 本資料の財務諸表は明細を割愛しています。詳細な財務情報は決算短信もしくは決算短信補足資料をご覧ください。
<http://www.hoya.co.jp/investor/kessan.html>

免責事項

本資料は、当社の評価を行うための参考となる情報提供のみを目的としたものです。投資等の最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。投資の結果等に対する責任は負いかねますのでご了承下さい。当資料に掲載されている将来に関する記述の部分は、資料作成時点の判断ですが、その内容の完全性・正確性を会社として保証するものではありません。